

文章から抽出された主張傾向

◆キーセンテンス — 書かれた文章で中心になっていた文章

あの人の文章は上手いとか、下手であるなどと言うが、その基準は、読み手の主観でしかない。数値は、約束した基準があり、モノサシがあるが、言葉には基準が果たしてあるのか。適切な文章は、文法にのっとった文章なのか。

◆文章に現れたキーワード群

基準 文章 言葉 文法 簡単 違う

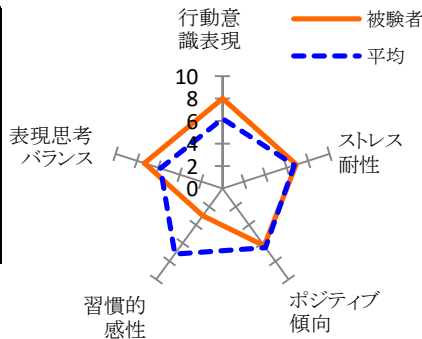
◆癖になっている言葉

※長文の場合は掲載されない箇所があります。

※多く使われていたら掲載されます。

被験者との平均での比較

測定項目	平均
行動意識表現	8.0
ストレス耐性	6.9
ポジティブ傾向	6.3
習慣的感性	3.0
表現思考バランス	7.3
平均	7.1

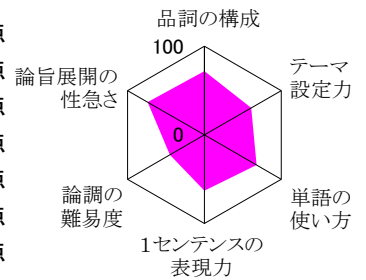


文章表現力と書き方傾向

■文章表現力測定の総合点

64 点

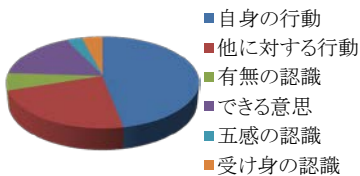
- 品詞の構成 72 点
- テーマ設定力 61 点
- 単語の使い方 68 点
- 1センテンスの表現力 63 点
- 論調の難易度 45 点
- 論旨展開の性急さ 74 点
- 書き方測定の得点 58 点



性格を表す表現傾向

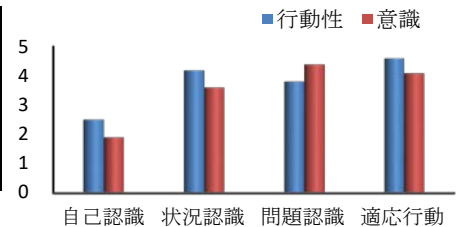
◆行動意識表現

測定項目	比率
自身の行動	47.0%
他に対する行動	23.0%
有無の認識	6.0%
できる意思	17.0%
五感の認識	3.0%
受け身の認識	4.0%



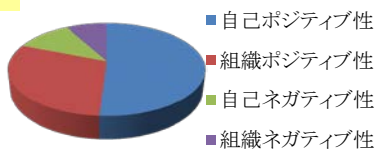
◆ストレス耐性

測定項目	行動性	意識
自己認識	2.5	1.9
状況認識	4.2	3.6
問題認識	3.8	4.4
適応行動	4.6	4.1



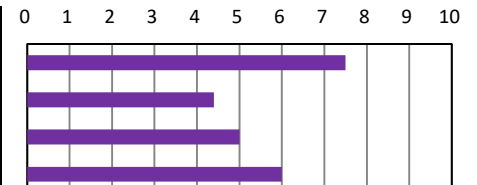
◆ポジティブ傾向

測定項目	比率
自己ポジティブ性	51.0%
組織ポジティブ性	30.0%
自己ネガティブ性	11.0%
組織ネガティブ性	8.0%



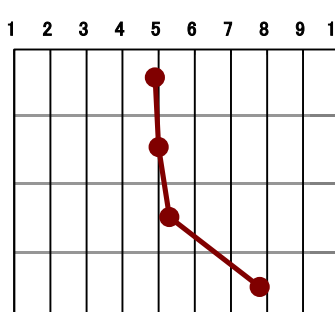
◆習慣的感性

測定項目	測定値
論理的感性	7.5
情緒的感性	4.4
志向的感性	5.0
こだわり傾向	6.0



◆表現思考バランス

測定項目	測定値	低い測定値の傾向
思考材料認識	4.9	僅かな材料で判断する傾向にある。予測姿勢が出ている。
行動方向認識	5.0	行動パターンが固定化しやすい。方法、方向が単純で一定している。
共感姿勢	5.3	他に対し同調する意識が乏しい。相手への対応が単純である。
状況適応姿勢	7.8	常に同じ行動をしてしまう。一貫した行動をとる。



高い測定値の傾向
十分すぎる判断材料を用意しなければ進めない。慎重である。
思考行動パターンが煩雑である。常に複数の方法と方向を持っている。
懇願する姿勢が現れる。他に対して訴えかける姿勢が強い。
行動パターンが多く、煩雑になる。他の行動を何でも容認しようとする。

ファーストステップの添削ポイント(測定に不要な記号等は抜き取って掲載しています)

■60字以上の文章は、文字数の背景色を変えています。長文数は、5/28センテンスでした。40字以内で書くようにしましょう。
< >内は接続詞、()は指示語もしくは連体詞です。【 】内は癖言葉です。できるだけ無くすようにしましょう。

箇所()の文は、キーセンテンスです。読んだ後に印象に残りやすい、言いたかった、伝えたかった内容が書かれている文章です。

文字数

— 本文 —

12 数字は1、2、と数える。

63 数には基準があり、0と1の概念があって、メートル法があり、他にも様々な単位があり、分野や目的に応じて、組み合わせて使っている。

59 言葉は日常に使われていて、言語の共通はあるが、果たして表現する【ため】の基準は存在しているのだろうか、【私】は【思っ】てしまう。

43 (あの) 人の文章は上手いとか、下手であるなどと言うが、(その) 基準は、読み手の主観でしかない。

63 文章を、もっと、簡単に、誰もが分かるように書け、酷い時はサルでも分かる文章を書けと言うが、簡単であるとは(如何なる)意味だろうか。

26 ソクラテスは大工に話すには大工の言葉を使えと言った。

46 簡単に、分かり易くと表現するよりも、ソクラテスの言葉を(そのまま) 引用するのが最適であるようだ。

64 話し手と聞き手によって、簡単さ、簡潔さは違い、具体物について話す場合と、抽象的な話をする場合も、知識と理解度によって違ってくる。

14 経験した【こと】によっても違う。

39 数値は、約束した基準があり、モノサシがあるが、言葉には基準が果たしてあるのか。

21 適切な文章は、文法にのっとった文章なのか。

29 文法に忠実に従った文章はみんな上手い文章になるのだろうか。

31 文法は、言葉ができる前からあったのか、言葉の後からできたのか。

53 もし、文法が言葉の後からできたとしたら、文法にのっとって表すのが最適であるのかと問えば、(これ) はノーである。

54 言語学者に聞くと、(その) 時、最も多く使われている使い方が正しいのだと言うが、一つの見方でしかないのではないか。

11 言葉は、変化していく。

28 環境、表現ツール、立場、人との関係によって使い方が違う。

28 <だが>、一つの言語には、一つの言語の基準があるはずである。

38 文章の上手い下手に関わらず、老若男女に関わらず、みんなの共通する言葉がある。

13 (これ) が、第一の基準である。

26 (この) 基準は、(如何なる) 意味の基準であるかは定かでない。

41 表現される対象、目的などについて、限定された範囲でしか通用しない基準かもしれない。

64 老若男女の共通する表現を基準にして、すべての表現を比較する【ため】の基準とし、他の基準を見いだす【ため】に発展させていくべきではないか。

83 表現についての基準、内容についての基準、姿勢意識についての基準、論理上の基準など、様々な基準が存在し、表現形式の基準でも、論文、評論、エッセイ、小説等々の基準がある。

56 文章を読めば、小説なのか論文なのか分かるが、何を持って小説としているのかを明らかにしなければ基準にはならない。

19 今までに多量の文章の分析を重ねてきた。

35 100万以上の文章を分析して、徐々に基準になる形態が見いだされてきた。

45 現在では、文体だけでなく、意味ジャンル、職種、文化、価値観などが見いだされるようになった。